

エコパルなごや

秋号
Vol.108

かんきょうをたのしく学ぶ

とくしゅう
特集

生きものはつながっている ～生物多様性について学んでみよう～

わたしたちのまわりにはたくさんの生きものがいます。人間に代表されるほ乳類をはじめ、鳥類、は虫類、両生類、魚類、昆虫などの動物のほか、植物や藻類など、地球上にはわかっているだけでも約175万種、まだよくわかっていないものも含めると、実際には3000万種もの生きものがいるといわれています。わたしたちがくらしている名古屋市内にも東部丘陵地の緑地やため池、河川などを中心に、この地域固有の生きものを含む約6,000種の生きものが生息・生育しています。これらの生きものはそれぞれ支えあって生態系をかたちづいています。

しかし、現在1年間に約4万種程度もの生きものが絶滅しており、今までバランスを保ってきた生きものどうしのつながりがぐずれつつあります。今回はその原因を考えながら、生物多様性の大切さについて学んでみましょう。



いろいろな話題をお届けします。

とくしゅう
特集

生きものはつながっている ～生物多様性について学んでみよう～

エコパル
NEWS

特別ワークショップ、マンスリー企画展示
なごや環境大学、藤前干潟ふれあい事業のご案内

1. 生物多様性ってなんだろう

地球上のすべての生きものは、その種だけで生きていくことはできません。ある生きものはほかの生きものをエサにするなど、生きものが互いに「つながりあい」そして「バランスをとりながら」生きています。さまざまな生きものが支えあい、バランスを保っている状態のことを「生物多様性」といいます。



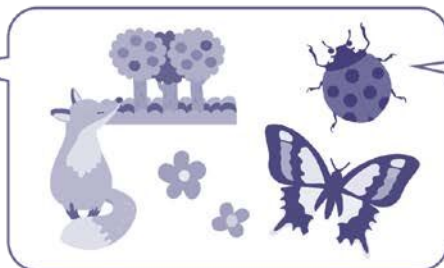
(1) 3つの生物多様性

生物多様性には、「生態系の多様性」・「種の多様性」・「遺伝子の多様性」の3つのレベルがあるとされています。いろいろな生態系（※1）があり、いろいろな種（※2）の生きものがいて、それぞれの種の中の遺伝子もさまざまです。このような生きものたちの多様さによって、わたしたちのくらしは維持されているのです。



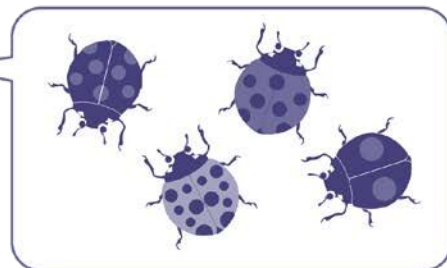
生態系の多様性

森林、里地里山、河川、湿原、干潟など、いろいろなタイプの自然があります



種の多様性

それぞれの環境に合わせて鳥、魚、虫、細菌、植物など、いろいろな種類の生きものがいます



遺伝子の多様性

同じ種の中でも異なる遺伝子を持つことにより、体の大きさや模様が変わりするなど、多様な個性があります

- (※1) 生態系：生きものたちのくらしは、太陽光、大気、水などの自然に支えられ成り立っています。そうした生きものたちと自然環境をあわせて生態系といいます。
- (※2) 種：生物を分類する際の基本的なまとまりのことです。

(2) 生物多様性もたらす自然のめぐみ

わたしたちはくらしの中で、生物多様性とどのように関わっているのでしょうか。たとえば、わたしたちの呼吸に必要な酸素は、植物の光合成によって生みだされています。また、森林に降った雨は川によって運ばれ、わたしたちが毎日利用する水になります。自然とのふれあいの場や、自然の中で感じるいやしの効果など、自然そのものからもさまざまな形でめぐみを受け取っています。

そのほか、食べ物やエネルギー、さまざまな製品の原料など、生活に欠かすことのできないものすべてが、生物多様性もたらす自然のめぐみです。生物多様性がはたしているさまざまな機能は、わたしたちの現在のくらしを維持していくうえで、なくてはならないものなのです。



イラスト提供：エコチル長野版2022年3月号

2. 生きものとの自然のつながり

森にはさまざまな生きものがすんでおり、その中には「食べる・食べられる」というつながりがあります。たとえば、ウサギのような草食動物は森の草や木の実を食べ、そのウサギを食べるキツネのような肉食動物がいます。また、そのキツネも、より大きな肉食動物に食べられてしまうことがあります。また森には、動物のフンや死がい、落ち葉があり、それらは微生物などによって分解され、土の中で養分となります。その養分を吸収して、植物が育ち、その植物を草食動物が食べます。このような生きものたちのつながりを「食物連鎖」とよんでいます。「連鎖」とは、「鎖のようにつながっている」という意味です。

また、「食べる・食べられる」という関係だけではなく、花とミツバチのように助け合う関係もあります。ミツバチは花の蜜を吸うときに花粉を体につけ、ほかの花に運んでいきます。そこで花は受粉ができ、次の世代につながっていきます。このように、生きものたちは自然の中でお互いに支えあっているのです。



出典：(株)日立製作所 日立キッズ

3. 身近な生きものたちの危機

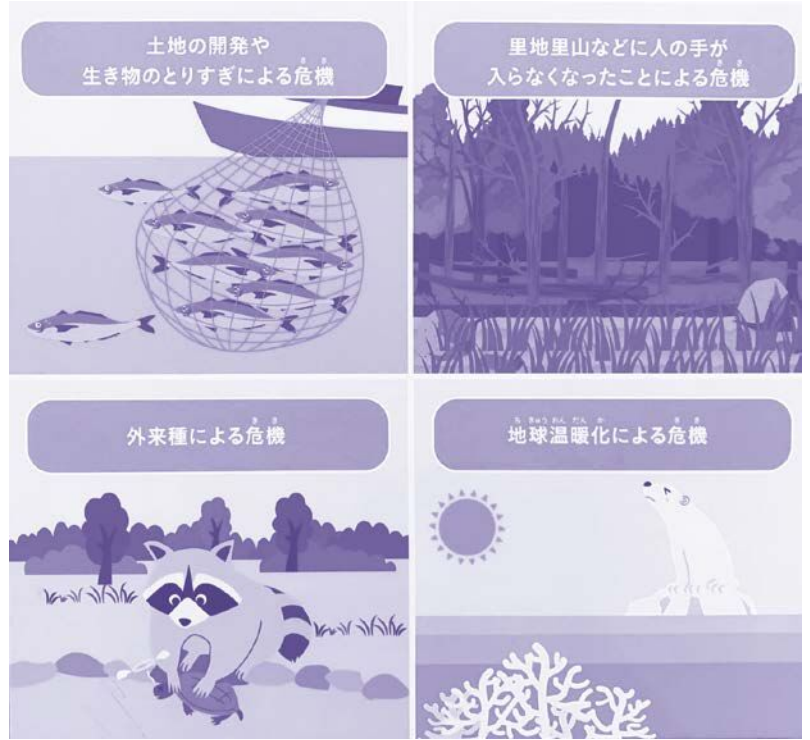
地球上に生命が誕生してから約40億年。過去にも自然現象などの影響により数多くの生きものが生存できなくなる「大量絶滅」の時代が何度ありました。

現在、過去とは比較にならない速度で種の絶滅が起きており、世界では1年間に約4万種もの生きものが絶滅しているといわれています。なぜこんなにも多くの生きものが絶滅してしまうのでしょうか。それは、人間の活動が、生きものがくらす環境にさまざまな形で影響を与えているからです。この影響で、地球上の種の絶滅のスピードは自然状態の約100~1,000倍にも達し、たくさんの生きものたちが危機に直面しています。ひとつの種が消えるということは、その生きものをつなぐ多くの生きもの命もあやうくなり、その結果、自然のめぐみが失われることになりかねません。

生物多様性がさらされている4つの危機

開発や乱獲による影響

人々がより便利な生活をおくるため、山を切り開いたり、海が埋め立てられることにより、生きものたちのすみ場所がうばわれてきました。また、食用や観賞用などの商業利用目的で生きものをとりすぎることも、個体数減少の直接的な要因になっています。人間の活動が自然に対してとても大きな負担を与えているのです。



(※1) 里地里山：人家が集まり人が自然を利用して生活している場所と人が農産物や木材を得るために手入れしてきた田畑や森林などで構成される地域のことです。

里地里山(※1)の変化による影響

人々は生活に欠かせない農作物や木材を得るために、常に田畑や森林を手入れしてきました。しかし、人口減少や高齢化、人々の生活様式の変化により里地里山の維持管理が困難になり、今までの生態系が変化して、生きものが絶滅の危機に直面しています。人と生きものとの関係を保つためにも里山に手を入れ、守っていく必要があります。

外来種による影響

外来種も生態系が乱れる原因の一つです。たとえば、他の地域から持ち込まれた外来種がその場所で生きていくために、もとからいた在来種を食べてしまったり、生息域をうばってしまったりしています。外来種は、むやみに「入れない」こと、すでに飼っている外来種がいる場合は絶対に「捨てない」ことが大切です。

地球温暖化による影響

地球温暖化など地球規模での気候変動は、生きものに大きな影響をあたえています。気温や海水温の上昇によりサンゴが白く脱色してみえる白化が起こったり、北極の氷の減少によりホッキョクグマの生息域がせばまっていることがよく知られているように、地球温暖化が進むことで多くの生きものの絶滅のリスクが高まっています。

4. 生きものを守り自然をゆたかにするために

~生物多様性の損失に歯止めをかけるには~

2010年、名古屋市で179の国や地域による生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催され、「愛知目標」と呼ばれる国際目標が採択されました。それから12年を経て、愛知目標にかわる新たな生物多様性の世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が2022年12月にカナダのモントリオールで開催されたCOP15で採択されました。

この枠組の注目すべきポイントは、2030年までのミッションとして、「生物多様性の損失を食い止め、回復させる」という「ネイチャーポジティブ(自然再興)」の考え方が反映されていることです。

2021年から2030年は国連総会の決議で「国連生態系回復の10年」と定められていて、生態系回復に向けた取り組み

を積極的に進める期間です。

日本では、昆明・モンリオール生物多様性枠組の採択を踏まえ、「生物多様性国家戦略」が策定されました。この戦略では、ネイチャーポジティブを達成するために、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する「30by30 (サーティ・バイ・サーティ) 目標」を含め、森林、土壌、水などの生物が生きていくための基盤を守り、活用するための行動を実行していくための行動計画が具体的に示されています。

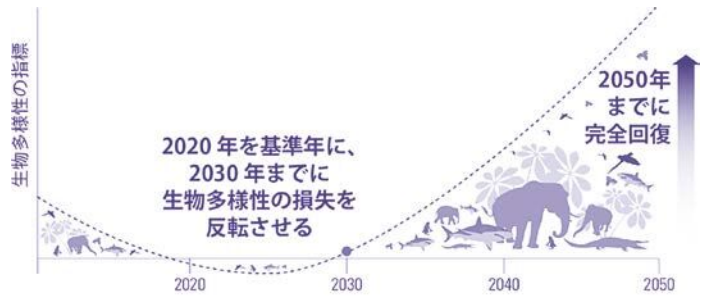


図7 2030年までのネイチャー・ポジティブに向けた自然のための測定可能な世界目標
出典：Locke et al., 2021¹²
出典：WWFジャパン「生きている地球レポート2022」

5. 生物多様性を守るための5つのアクション

わたしたちは、さまざまな生きものがすむことのできる自然をこわさないようにし、たくさんの生きものが生き続けられる環境を守っていく必要があります。

生物多様性を守るため、わたしたちにできることはあるのでしょうか。

都市に住んでいると、自然が身近なものに感じられず、身のまわりの自然のめぐみを見落としがちになります。しかし、よく見るとわたしたちの周りには、さまざまな生きものがいることに気づきます。生物多様性がもたらす自然のめぐみを受け続けられるように、次の5つの中からできることを選んで、生物多様性を守るために行動しましょう！

- Act 1 地元でとれた物を食べ、旬のものを**味わおう**
 - Act 2 自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などをたずね、自然や生きものに**ふれよう**
 - Act 3 自然のすばらしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えよう**
 - Act 4 生きものや自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加しよう**
 - Act 5 エコマークなどがついた環境に優しい商品を選んで**買おう**
- 出典：環境省生物多様性ウェブサイト

みなさん知っていますか？

～アカミミガメ・アメリカザリガニの規制が始まりました～

ペットとして身近な「アカミミガメ」と「アメリカザリガニ」が2023年6月1日より、「条件付特定外来生物」(※1)に指定されました。指定後も、家庭で



写真提供：名古屋港水族館

ペットとして飼育しているアカミミガメ・アメリカザリガニは、これまでどおり飼うことができますが、池や川などの野外に放したり、逃がしたりすること、販売や購入することは法律で禁止されています。違反すると罰則・罰金の対象となるので注意しましょう。アカミミガメ・アメリカザリガニは、寿命を迎えるまで大切に飼育してくださいね。

(※1) 条件付特定外来生物：法律に基づき特定外来生物に指定された生物のうち、通常の特定外来生物の規制の一部を、当分の間、適用除外とする(規制の一部がかからない)生物の呼び名です。

写真提供：なごや生物多様性センター



出典：環境省ウェブサイト「日本の外来種対策」

「せん定枝を使ったキリンづくり」

- 日時** 10月29日(日) 10:30～11:10 13:00～13:40
- 対象** 3～12歳の方(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各30名(先着申込順)※10月11日(水)9:30受付開始
- 費用** 一作品500円
- 内容** せん定枝を使った楽しい工作です。
手のひらサイズのキリンを作ります。
- 講師** もくもく楽舎 たけちゃん工房



「せん定枝を使ったトナカイ・ソリづくり」

- 日時** 12月17日(日) 10:30～11:10 13:00～13:40
- 対象** 3～12歳の方(小学校3年生以下の方は保護者同伴)
- 定員** 各30名(先着申込順)※11月11日(土)9:30受付開始
- 費用** 一作品700円
- 内容** せん定枝を使った楽しい工作です。
手のひらサイズのトナカイとソリを作ります。
- 講師** もくもく楽舎 たけちゃん工房



マンスリー企画展示

10月
テーマ

せん定枝を使った
動物たち

出展者

もくもく楽舎 たけちゃん工房

内容

せん定枝などでつくった動物たちが、各季節を楽しく過ごしている様子や元気良く通学して授業を受けている様子などを展示します。

11月
テーマ

藤前干潟の紹介

出展者

藤前干潟ふれあい事業実行委員会

内容

藤前干潟はラムサール条約に登録された、生きもの豊かな干潟です。そんな藤前干潟の自然と魅力、楽しみ方を紹介します。

12月
テーマ

環境白書表紙絵
入賞作品展示

出展者

名古屋市環境局環境企画課

内容

「令和5年度版 名古屋市環境白書 表紙絵募集」で入賞した作品を展示します。

エコパルなごやのメールマガジン「エコパル通信」のお知らせ

エコパルなごやのイベントや展示情報、なごや環境大学の講座情報など最新情報をタイムリーにお知らせします。エコパルなごやウェブサイトのトップページ「エコパル通信」の登録フォームにメールアドレスを入力すると登録できます。

エコパルなごや

登録



なごや環境大学



「なごや環境大学ガイドブック2023後期号」 配布＆ウェブサイト公開中！

なごや環境大学では、環境講座を多数開催しています。だれでも気軽に参加できる講座は、まちじゅうがキャンパス。里山や水辺をはじめ、教室や工場でも、様々な場所で多様な講座が開催されています。詳しくはウェブサイトや無料配布中の冊子「なごや環境大学ガイドブック2023後期号」をご覧ください。

ガイドブック配布場所

- ▶名古屋市内の各区役所・支所
- ▶図書館
- ▶生涯学習センター
- ▶スポーツセンター等



Webサイトはこちら

なごや環境大学ウェブサイト
<https://www.n-kd.jp>



愛岐の里山たいけん隊 ～秋の里山にいこう！～

岐阜県多治見市諏訪町にある愛岐処分場は、名古屋市のごみの最終処分場。敷地内には、諏訪町の協力により再生した自然豊かな里山があります。里山での芋ほりや処分場見学などの体験を通じて、秋を楽しもう！

お昼には、地元の食材をメインに使ったおいしい手作りごはんをいただきます。

※状況により、一部プログラムが変更になる場合があります。雨天中止。

- 日時** 11月11日（土）
- 場所** 名古屋市愛岐処分場（多治見市）
- 受講料** 1,500円（バス代・保険料・昼食代）
- 対象** 小学4年生から中学2年生まで
- 定員** 15名
- 申込** 10月27日（金）必着・抽選



お申込時の記入事項

- ①名前・ふりがな、②学校名、③学年、④性別、⑤住所、⑥電話番号、⑦FAX番号、⑧メールアドレス、⑨アレルギー・バス酔いの有無

お問合せ先

「なごや環境大学」実行委員会事務局
(エコパルなごや内)

〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
(TEL&FAX) 052-223-1223 (E-mail) jim@n-kd.jp



参加者募集！

藤前干潟ふれあい事業のご案内

「バードウォッチング」

- 日時** 11月18日（土）10：00～12：00
- 対象** どなたでも（小学生以下は保護者同伴）
- 定員** 40名（応募者多数の場合は抽選）
- 締切** 11月2日（木）
- 内容** 望遠鏡でカモの仲間やミサゴなどを観察した後に、カモのミニ模型へ色塗りをします。
- 会場** 名古屋市野鳥観察館・稲永ビジターセンター（港区野跡4-11-2）
あおなみ線「野跡」駅または市バス「野跡駅」バス停下車徒歩15分。駐車場有。



- 申込方法** メール、往復はがきにて下記①から③の事項をお伝えください。
- 必要事項** ①催し名 ②参加者全員の氏名（小学生の場合学年も記入）
③電話番号（日中連絡のとれる番号）
- 申込先** 藤前干潟ふれあい事業実行委員会（エコパルなごや内）
〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13 伏見ライフプラザ13階
Eメール：ecopal@n-kd.jp



藤前干潟ふれあい事業の
YouTubeチャンネルを開設しています。

藤前干潟のイベントや
いろんな動画を
アップしていくよ！



藤前干潟
ふれあい事業
関連情報は
こちらから



名古屋市環境学習センター エコパルなごや

申込・問合せ先

TEL：052-223-1066 FAX：052-223-4199
<http://www.kankyo-net.city.nagoya.jp/ecopal/>
E-mail：a2231066@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp

〒460-0008 名古屋市中区栄一丁目23番13号
伏見ライフプラザ13階

地下鉄東山線・鶴舞線の伏見駅「5番出口」徒歩7分

■開館時間／午前9時30分～午後5時 ■入館料／無料

■休館日／毎週月曜日 祝日の場合はその翌平日

年末年始 12月29日～1月3日

エコパルなごや



(消防署があるビル13階)

